

2:18 また、テアテラにある教会の御使いに書き送れ。『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子が言われる。 2:19 「わたしは、あなたの行いとあなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っており、また、あなたの近ごろの行いが初めの行いにまさっていることも知っている。 2:20 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは、イゼベルという女をなすがままにさせている。この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて誤りに導き、不品行を行わせ、偶像の神にささげた物を食べさせている。 2:21 わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は不品行を悔い改めようとしな。 2:22 見よ。わたしは、この女を病の床に投げ込もう。また、この女と姦淫を行う者たちも、この女の行いを離れて悔い改めなければ、大きな患難の中に投げ込もう。 2:23 また、わたしは、この女の子どもたちをも死病によって殺す。こうして全教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを知るようになる。また、わたしは、あなたがたの行いに応じてひとりひとりに報いよう。 2:24 しかし、テアテラにいる人たちの中で、この教えを受け入れておらず、彼らの言うサタンの深いところをまだ知らないあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせない。 2:25 ただ、あなたがたの持っているものを、わたしが行くまで、しっかりと持っていなさい。 2:26 勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与えよう。 2:27 彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。 2:28 また、彼に明けの明星を与えよう。 2:29 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』』

導入

テアテラの教会に宛てられたこの手紙は、7つの手紙の中でもっとも長い手紙です。

テアテラは、州都ペルガモンへの玄関口でした。テアテラは商業が盛んで、ふたつの大きな川に沿う谷に位置しました。

この町はとりたてて宗教的な重要性はなく、ギリシャ神話やカエサル信仰の中心地ではありませんでした。

この町の守護神はテリムノスです。地元の貨幣には、斧とこん棒を持って馬に乗るテリムノスの姿が刻まれていました。

この町の宗教について特筆すべきことはただひとつ、占いの館があったことです。この占いの館は、サンバテという女が経営していました。

この町には迫害の脅威はありませんでした。

では、テアテラの問題は何だったのでしょうか。

この町に関する歴史の記録は、周辺地域の教会ほど多く残されていませんが、いちばんの問題が何であったかを推測できる重要な情報があります。

テアテラは商業都市で、とくに染色業や羊毛品の貿易が盛んでした。

紫布の商人ルデヤもテアテラの出身でした。（使徒 16 : 14）

町にはたくさんの商業組合がありました。

あらゆる業種の人々がそれぞれ組合や団体を作っていました。

皮革業組合、絹糸組合、パン屋組合、陶器屋組合などたくさんあり、これらの組合に加入しないのは、現在の商業組合に加入しないのと同じで、商売がとてやりづらくなりました。

クリスチャンがこれらの商業組合に入らない理由は何でしょう。

クリスチャンがこれらの組合に入らない理由は、組合が会食をするからです。

こうした会食はたいい神殿で開かれ、最初にそこに祀られた神々にいけにえをささげることから始まります。

こうした神々に供えられた肉を人々は会食で食べました。

また、たくさんお酒を飲み、みだらな行為も行われました。

ですから、信仰を堅く守るクリスチャンなら、このような会食には参加したくなかったのです。

イゼベルという女は、商売繁盛のために信仰を妥協するよう、しきりに教会の人々に勧めました。では、これらの背景を踏まえて、学びに入りましょう。

今日の聖書箇所には、大切なポイントが5つあります。

1. イエスの描写 (18 節)

ここでイエスは、燃える炎のような目と光り輝くしんちゅうのような足のお方だと描写されています。

これは、ダニエル書 10 : 6 に登場する人の説明からの引用です。

ダニエル 10:6 そのからだは緑柱石のようであり、その顔はいなずまのようであり、その目は燃えるたいまつのものであった。また、その腕と足は、みがき上げた青銅のようで、そのことばの声は群集の声のものであった。

燃える炎のような目はふたつのことを象徴します。

まず、その目はおそらく罪に対する怒りで燃えていたのでしょう。次に、その目は人のうわべを貫き、心の奥底まで見通す目です。

イエスのまなざしから隠れることはできません。どんなに体裁を取り繕っても無駄です。イエスは、私たちの本当の姿をご存じです。

しんちゅうのような足は、よみがえりの主イエスが揺るぎない力の持ち主であることを象徴します。

ですから、イエスの弟子たちにとっては励みになります。

イエスは力強いお方で、私たちとともにおられます。そして、罪を憎まれるお方で、私たちとは違った神の視点で罪に対処なさいます。

ヘブル 3 : 12-13

3:12 兄弟たち。あなたがたの中では、だれも悪い不信仰の心になって生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。 3:13 「きょう」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされてかたくなにならないようにしなさい。

私たちも罪に惑わされる可能性がありますから、私たちは人が何と言おうと、イエスの視点をとおして神のみことばによって自分自身の生き方を常に吟味する必要があります。

2. イエスはいくつかのことについてこの教会を褒められた。(19 節)

イエスは 4 つの事柄についてテアテラの教会を褒められました。それは、「愛」「信仰」「奉仕」「忍耐」です。

ここで愛と訳されたギリシャ語の単語は「アガペー」です。それは、イエス・キリストをとおして聖霊によって与えられる神の愛を指します。

アガペーの愛は、犠牲的な生き方を意味します。つまり、人類すべてに対するイエスの愛をあらわします。

イエスは、私たちの罪のために十字架上で死ぬことによって、その愛を示してくださいました。

これは、人間的な愛ではありません。

人間的な愛は、好きな人や気に入った物に惹かれます。

神の愛は人間の愛よりももっと深いものです。

テアテラの教会の人々は、このような愛を示していました。

そして、この愛は奉仕につながりました。

彼らは、聖霊をとおしてイエスに仕える心構えがありました。それは、イエスが示してくださいました愛に感謝していたからです。

彼らは、心も生き方も変えられた人たちでした。

内住の聖霊が神の愛にあふれ、奉仕したいと心から思っていたのです。
私たちがイエスを愛しているからイエスに仕えるなら、奉仕は喜びであり特権となります。
一方、奉仕しなければならぬからという気持ちで仕えるなら、私たちの信仰は律法的で冷めたものになってしまいます。

奉仕に対する姿勢は、私たちがイエスをどれだけ愛しているか、福音をどれだけ理解して感謝しているかを試します。

ですから、恵みの福音をしっかりと理解するのが大切です。また、この福音が私たちの今と永遠とにどんな影響をもたらすかも理解する必要があります。

次の褒め言葉は、信徒たちの「信仰」についてでした。

初代教会の時代、信徒たちの信仰はみことばから教えられた内容に基づいていました。

当時は、旧約聖書の写本がいくつか存在しましたが、聖書全巻を持っているわけではなく、教えは口伝に継承されていました。

彼らは神のみことばに信仰を置いていました。

私たちクリスチャンは、神のみことばを頭で理解し信じてますが、それを日常に実践するとなるとなかなかできません。ですから、神のみことばを頭で信じるだけでなく、日々の生活で実行しましょう。

例えば、聖書は自分の属する教会に什一献金をささげ、さらに犠牲を払ってささげるようにと教えます。

ここで問題が起こります。

すべきことはわかっているけど、「収入の一割も OIC に献金したら、生活できなくなる」と思ってしまう。

けれども、私は 30 年以上神に仕えてきましたが、「月末になって生活できなくて困っているのに神は助けてくださらず放っておかれた」というクリスチャンを見たことがありません。

神は誰にも借りはありません。そして、あなたの必要を満たす方法を必ず見つけてくださいます。

では、なぜ什一献金をささげるのでしょうか。

1. 神がそう命じられたから。（レビ記 27 : 30）
2. イエスが勧めておられるから。（マタイ 23 : 23）
3. 什一献金をささげる行為が神への感謝を表すから。（詩篇 116 : 12、申命記 16 : 17）
4. 什一献金をささげないのは、神から盗むことだと神がおっしゃったから。（マラキ 3 : 8-10）

私たちは、ふさわしい態度でささげる必要があります。ふさわしい態度とは、惜しみなく、喜んで、神に期待してささげる態度です。（コリント第二 9 : 1-14）

もうひとつ褒められたことは、「忍耐」でした。

この忍耐は、試練の中で耐えることです。彼らは試練の中でもしっかりと耐えたのです。

最後に、「近ごろの行いが初めの行いにまさっている」とあります。

彼らの働きが常に進歩していることを指します。

テアテラの教会は、表面上勢いのある強い教会のようでした。

よその人がこの教会を訪れたら、信徒たちの愛や信仰、奉仕、そして揺るぎない姿に感心したでしょう。

しかし、彼らにも欠けた部分がありました。

その欠点は重大な問題でした。

これは、私たちへの警告です。

教会にたくさん人が来て、愛と活気にあふれる礼拝をしていますが、イエスの目に正真正銘の教会だと映らない可能性があります。
教会が、りっぱなクリスチャンクラブになってしまう危険性があるのです。
本物の教会は、イエスの目をとおして吟味されなければなりません。
先ほど登場した、燃える炎のようなイエスの目です。

次に、誤りの原因について考えましょう。

3. 誤りの原因 (20 節)

テアテラの問題の中心には、イゼベルという女がいました。
イゼベルは自称預言者でした。
彼女は教会の信徒たちをそそのかし、偶像にささげられた食べ物を食べることや性的不品行を勧めました。
当時、これはクリスチャンにとって大きな悩みでした。

では、クリスチャンは偶像にささげられた肉を食べてもよいのでしょうか。
これについて、パウロはコリント第一 8-10 章で語りました。
これは非常に複雑な問題です。
偶像にささげられた肉をクリスチャンが食べると、他のクリスチャンをつまずかせてしまうかもしれないので、食べないほうがよいというのが基本的な考えです。
つまり、問題が起こる可能性の話です。
しかし、使徒 15 : 29 では、異邦人が教会に迎え入れられる条件のひとつとして、偶像にささげられた肉を食べないことが挙げられています。
この禁止事項によって、クリスチャンは地域行事などと縁を切ることを余儀なくされました。
また、この条件に従うと、特定の商売や職業にも就けなくなります。
導入部分でお話したように、貿易商たちは組合に入って会食に参加しなければなりませんでした。
そうすると、偶像にささげられた肉を食べたり、神殿に出入りしたりしなければなりません。
そこでイゼベルは、教会の人々に地域や商売の付き合いを絶やさないように仕向けたのです。

彼女はサタンに気を許し、自分の思いどおりにしようとして、聖書の教える秩序を無視しました。

イゼベルは、性的不品行についても信徒たちを惑わしました。
詳しい内容は記されていませんが、姦淫や異常な性行動などが挙げられるでしょう。

教会はキリストの花嫁であると新約聖書は教えます。

コリント第二 11 : 1-2

11:1 私の少しばかりの愚かさをこらえていただきたいと思います。いや、あなたがたはこらえているのです。 11:2 というのも、私は神の熱心をもって、熱心にあなたがたのことを思っているからです。私はあなたがたを、清純な処女として、ひとりの人の花嫁に定め、キリストにささげることにしたからです。

エペソ 5 : 24-28

5:24 教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。
5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。 5:26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水

の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、5:27 ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。5:28 そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。

私たちはキリストの花嫁ですから、キリストのために自らをきよく保つ必要があります。

ローマ 12 : 1-2

12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきま知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

4. イエスは、悔い改めない者に対する罰を約束される。(21-23 節)

イエスはイゼベルに悔い改める時間を与えられましたが、イゼベルは悔い改めませんでした。

そこでイエスはイゼベルと惑わされた人たちに対する罰について語られます。

イエスは、イゼベルの子どもたちを殺し、イゼベルを大きな患難の中に投げ込まれます。

また、イゼベルと惑わされた人たちを病の床に投げ込まれます。

彼らは皆、悔い改めの機会があったのに、悔い改めた人とそうでない人がいました。イゼベルは悔い改めなかったのでしょうか。

先日、神は焼き尽くす炎だというヘブルのみことばを学びました。(ヘブル 12 : 29)

神はご自身の教会を偽りの教えや誤ったことをさせようとする誘惑から守ってくださいます。

ずいぶん厳しい処罰だと思かもしれませんが、このようなことに教会が引っかかってしまうと、神の証に傷がつきます。

ですから、正しい教えが信徒にとって重要なのです。

誤った教えは魅力的な内容が多く、惑わされたことに気づかない場合が多いですから、何事も聖書に照らして確認しなければなりません。

5. イエスは、真理にしっかりつながる者に祝福を約束される。(24-29 節)

イエスは、テアテラの教会の忠実な信徒たちにはほかの重荷を負わせないと約束なさいました。

そして、持っているものをしっかり持ち続けるようにとおっしゃいました。

それは、信仰、愛、奉仕、そして忍耐です。

イエスは、最後まで忠実な人々に、ふたつの大きな祝福を約束してくださいました。

ひとつめは、「諸国の民を支配する権威」です。

ここでイエスは、詩篇 2 : 8 を引用しておられます。

これは、すばらしい約束です。

この信徒たちが他の国の民を支配する日がいつかやってくるという約束です。

将来、イエス・キリストがこの地上を千年治められると信じているクリスチャンにとって、この言葉はその教えを支持する根拠のひとつになります。

もしそれを信じていないなら、この約束の意味を理解するのは非常にむずかしいでしょう。

イエスの千年王国については、黙示録の後の学びで詳しく見ていきます。

ふたつめは、「明けの明星」です。

明けの明星が何を指すかについては、さまざまな解釈があります。

しかし、黙示録と直接関連づけられる解釈はたったひとつです。

では、黙示録 22 : 16 を読みましょう。

黙示録 22:16 「わたし、イエスは御使いを遣わして、諸教会について、これらのことをあなたに告げた。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」

明けの明星の約束は、イエス・キリストご自身を与えてくださるという約束です。忠実なクリスチャンは、この世の人生が終わる時、キリストご自身をいただくのです。なんとすばらしい約束でしょう。誰よりも愛してくださるお方以上に求めるものはあるでしょうか。

イエス・キリストをとおして示された神の愛を物語るお話を最後に分かち合いたいと思います。

第二次世界大戦中のフランスで、ある男性が亡くなりました。男性の友人は、彼をちゃんと埋葬してあげたいと思い、村の近くの墓地を見つけました。そこは、ローマカトリック教会の墓地でしたが、亡くなった友人はプロテスタントでした。神父は、教会の墓地に男性を埋葬することを断りました。友人たちがずいぶん落胆したので、神父は、墓地の塀の外にある空き地になら埋葬してもよいと言いました。戦争が終わり、彼らは亡くなった友人の命日に墓を訪れましたが、そこに友人の墓はありませんでした。そこで、神父を訪ね、墓のことを聞くことにしました。神父は、彼らが帰った後、何日も眠れない夜が続いたので、墓地の塀を動かして、友人の墓も墓地の一部に入れることにした、と答えました。神父は、塀を移動させてからは、心穏やかにぐっすり眠ることができました。

神は私たちが迎え入れるために塀を移動させてくださいました。それはただ、イエスが私たちの罪のために死んでくださったおかげです。